

4. 研究支援等

ここに記載しているのは、直接研究活動を行わないが研究を遂行する上でなくてはならない研究支援業務であり、主に技術職員が担当・支援しているものである。特に法人となってからは、全国の分子科学コミュニティの連帯を強めるために研究支援部門を強化してきた。法人化後に新設された部門には、「安全衛生管理室」、「広報室」、「史料編纂室」があり、引き続き活発な活動を行っている。また、2013年度から自然科学研究機構は「研究大学強化促進事業」の支援対象機関となり、分子研もこの事業の一環で「研究力強化戦略室」が設置され、広報室と史料編纂室は研究力強化戦略室に発展的に含まれることになった。2021年度より、技術課は技術推進部に改組されたが、引き続き技術推進部と戦略室が連携して研究支援業務を進めている。

技術推進部は、研究支援組織の中核になる大きな集団を構成している。分子科学研究所では、法人化後、技術職員を公募で選考採用したり、研究室配属の技術職員を研究施設に配置転換したりすることによって、大型の研究施設を維持管理する部門や共同利用を直接支援する部門を増強した。2007年度に組織編成を大きく見直したが、新しい研究センターの設置や研究所の構想により即した体制を整えるため、2013年7月に7技術班を6技術班に再編し一部の人員配置換えも行った。更に、2021年度よりスタッフ制による所長直属の技術者組織、技術推進部に改組し、各附属施設をユニット化した上で、マネジメント役のユニット長を配置している。これにより、各個人のもつ高い専門的技術をより効率的に発揮し、研究者が研究に専念できるように技術支援する体制を構築している（「2-8 構成員」を参照）。

安全衛生管理室は、法人化に伴い、研究所の総括的な安全衛生が労働安全衛生法という強制力を持つ法律によって規制されるようになったため、その法律の意図するところを積極的かつ効率的に推進するために設置された。それまでは、設備・節約・安全委員会という意思決定のための委員会が存在していたが、安全衛生の実際の執行は技術課が一部を担当したものの、専門に執行する組織はなかった。現在、安全衛生管理室には、専任の特任研究員と助手、十名弱の兼任の職員を配置し、執行組織として多くの施策を実行している。部分的に、2002年3月に廃止した研究施設の「化学試料室」の機能も有している。担当職員は安全衛生を維持するのに必要な資格を全て取得し任務にあたっている。

広報室は、法人化と共に設置した部門であり、研究活動報告や要覧誌の発行などに留まらず、国民により積極的に研究所で行っている研究内容を分かりやすく紹介することに重点を置き様々な活動を行ってきた。例えば分子研における研究トピックスの発信やプレスリリース、分子研ウェブサイトの整備、事業内容を紹介する動画の制作や展示室を見学者に公開するなど、研究所のアウトリーチ活動全般を担っている。これらの活動を研究力強化の立場から見直すことも含めて、研究力強化戦略室として一体的な活動を進めている。

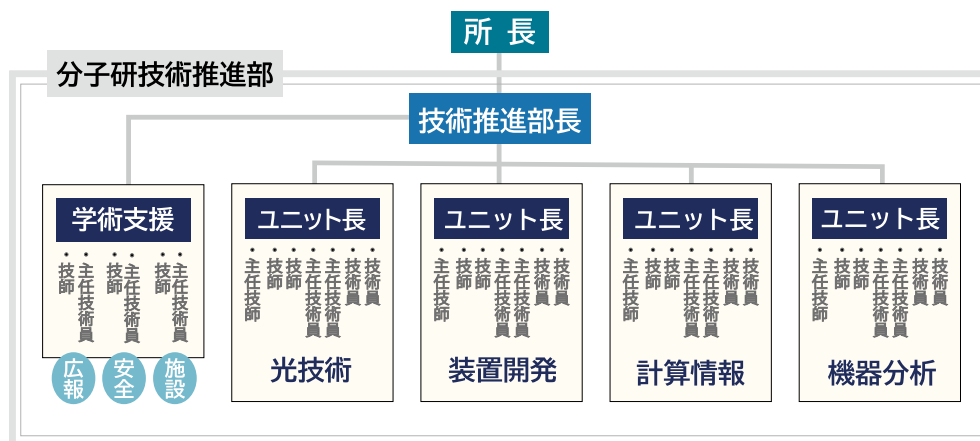
史料編纂室は、法人化後に設置された支援組織としては一番新しい。法人化後まもなく迎えた創立30周年記念行事の中で分子研設立の経緯を残すことの重要性が認識された。このため、総研大葉山高等研究センターを中心に発足した「大学共同利用機関の歴史」研究プロジェクトに参加する形で史料編纂室を発足させた。分子研設立の経緯と共に、過去に所員が行ってきた研究、分子科学コミュニティの形成過程などの歴史を整理・記録してきた。広報資料や研究活動等評価資料（IR資料）という観点で、研究力強化戦略室の中に位置付けることとなる。

4-1 技術推進部

分子科学研究所技術課は、2021年4月1日より、技術推進部に改組された。1975年の研究所設立と同時に、技術分野での研究支援を目的として、文部省教室系技官が全国で初めて組織化された分子研技術課であるが、時代と共に、高い専門性を持つ職員が増えてきたことに伴い、事務組織と同じライン制での組織運営が馴染まなくなっていた。そこで、スタッフ制による所長直属の技術者組織に改組し、各附属施設をユニット化した上で、マネジメント役のユニット長を配置することにより、各個人のもつ高い専門的技術をより効率的に発揮し、研究者が研究しやすい環境を整備すると共に、研究に専念できるように技術支援する体制を構築し、再出発することとなった。

技術推進部は、以前の技術課と同様に所長直属の組織であり、技術職員を統轄する技術推進部長の下、光技術ユニット、装置開発ユニット、計算情報ユニット、機器分析ユニットの4つのユニット、及び学術支援担当職員により構成される。構成員は2021年4月1日現在で34名である。技術職員は、主に研究施設に配属され、それぞれの持つ高い専門技術で研究教育職員と協力し、先端的かつ独創的な研究を技術面から支え、大学共同利用機関の使命を果たすために努力している。各施設に配属された技術職員の対応する技術分野は広範囲にわたっている。機械、電気、電子、光学、情報、といった工学知識や各要素技術の技能を基に支援業務として実験機器の開発、システム開発等を行い、物理・化学・生命科学を基に物質の構造解析や化学分析等を支援している。この様に技術職員の持っているスキルを活用し、UVSORやスパコン、レーザーシステム、X線回折装置、電子顕微鏡、ESR、SQUID、NMRなど大型設備から汎用機器の維持管理、施設の管理・運用も技術職員の役割としている。さらに、科学の知識を基に研究所のアウトリーチ活動も職務として担い、広報に関する業務、出版物の作成も行っている。所内の共通業務としてネットワークの管理・運用、安全衛生管理も技術推進部の業務として行っている。安全衛生管理では、研究所の性質から毒物・劇物・危険物など薬品知識や低温寒剤等高压ガスの知識、放射線管理、その他技術的な側面から毎週職場巡視を行い、分子研の安全衛生管理に寄与している。

技術職員が組織化されたのは、1975年に創設された分子科学研究所技術課が日本で最初である。技術職員が組織化されたことで直接待遇改善につながったが、組織化の効果はそれだけでなく、施設や研究室の狭い枠に留まっていた支援を広く分子科学分野全体の研究に対して行うことができるようになり、強力な研究支援体制ができあがった。支援体制の横のつながりを利用し、岡崎3機関の岡崎統合事務センターと技術推進部が協力して最良の研究環境を研究者に提供することを目標に業務を推進している。しかし、事務組織とは違って分子研の技術職員は流動性に乏しいので、組織と個人の活性化を図るために積極的に次のような事項を推進している。



4-1-1 技術研究会

施設系技術職員が他の大学、研究所の技術職員と技術的交流を行うことにより、技術職員相互の技術向上に繋がることを期待し、1975年度、分子研技術課が他の大学、研究所の技術職員を招き、第1回技術研究会を開催した。内容は日常業務の中で生じたいろいろな技術的問題や失敗、仕事の成果を発表し、互いに意見交換を行うものである。その後、毎年分子研でこの研究会を開催してきたが、参加機関が全国的規模に広がり、参加人員も300人を超えるようになった。そこで、1982年度より同じ大学共同利用機関の高エネルギー物理学研究所（現、高エネルギー加速器研究機構）、名古屋大学プラズマ研究所（現、核融合科学研究所）で持ち回り開催を始めた。その後さらに全国の大学及び研究機関に所属する技官（現、技術職員）に呼びかけ新たな技術分野として機器分析技術研究会も発足させた。現在ではさらに多くの分科会で構成された総合技術研究会が大学で開催され、さらなる発展を遂げつつある。表1に技術研究会開催場所及び経緯を示す。

表1 技術研究会開催機関（中期計画第3期）

年度	開催機関	開催日	分科会	備考
2016	名古屋大学	2016年9月8-9日	機器・分析	
	東京大学	2017年3月9-10日	機械加工・ガラス、実験装置・大型実験、回路・計測制御、低温、情報・ネットワーク、フィールド・農林水産海洋、生命科学、分析、実験実習・社会貢献、建築・土木・資源開発、施設管理・環境安全衛生、文化財保存	
2017	長岡科学技術大学	2017年8月29-30日	機器・分析	
	分子科学研究所	2017年2月8-9日	電子回路、リソグラフィ、機械工作	
	核融合科学研究所	2018年3月1-2日	工作技術、装置技術、計測・制御技術、極低温技術、情報・ネットワーク技術	
2018	秋田大学	2018年9月6-7日	機器・分析	
	分子科学研究所	2019年2月7-8日	エレクトロニクス技術、機械工作	
	九州大学	2019年3月6-8日	機械・材料、製作技術、特殊・大型実験、電気・電子・通信、極低温、情報、生物・農林水産、生命科学、分析・評価、実験・実習、建設・土木・資源、施設管理・安全衛生管理、地域貢献・技術者養成	
2019	分子科学研究所	2019年8月29-30日	機器・分析	
	千葉大学（高エネルギー加速器研究機構共催）	2020年3月5-6日	機械工作、実験装置、計測制御、真空低温、情報処理	開催中止
	鹿児島大学	2020年3月18-20日	実験・実習、地域貢献、安全衛生	開催中止
2020	奈良先端科学技術大学院大学	2020年9月10-11日	機器・分析	オンライン開催
	東北大学	2021年3月3-5日	加工・開発、電子回路・測定・実験、分析・評価・観測、生物・生命、情報・ネットワーク、安全・保守、建築・土木、社会貢献・組織運営、実験・実習技術	オンライン開催
2021	山口大学	2021年9月9-10日	機器・分析、危機管理	オンライン開催
	東京工業大学	2022年3月3-4日	加工・開発、電子回路・測定・実験、分析・評価・観測、バイオ・バイオ科学、情報・ネットワーク、安全・放射線保守管理、建築・土木、社会貢献・組織運営、実験・実習技術、環境整備・コロナウイルス対策	オンライン開催
	核融合科学研究所	2022年3月10-11日	工作技術、装置技術、計測・制御技術、極低温技術、情報・ネットワーク技術	オンライン開催

4-1-2 技術研修

1995年度より、施設に配属されている技術職員を対象として、他研究所・大学の技術職員を一定期間、分子研の附属施設に受け入れ技術研修を行っている。分子研のような大学共同利用機関では、研究者同士の交流が日常的に行われているが、技術者同士の交流はほとんどなかった。他機関の技術職員と交流が行われれば、組織の活性化、技術の向上が図れるであろうという目的で始めた。この研修は派遣側、受け入れ側ともに好評だった。そこで、一步進めて、他研究機関に働きかけ、受け入れ研修体制を作っていただいた。そうした働きかけの結果、1996年度より国立天文台が実施し、1997年度には高エネルギー加速器研究機構、1998年度からは核融合科学研究所が受け入れを開始し現在も続いている。法人化後は、受け入れ側の負担や新しい技術の獲得には大きく寄与していないため、実施件数は少なくなってきた。そこで、2007年度からセミナー形式で外部より講師を招き、併せて他機関の技術職員も交えて「技術課セミナー」を行ってきた。技術推進部に改組後も、様々な技術分野のトピックを中心に開催する予定である。また、従来の受け入れ研修も小規模ながら続けている。なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により実施できなかった。

表2に分子研での受け入れ状況を示す。

表2 技術研修受入状況（中期計画第3期）

年 度	受 入 人 数（延）
2016	7
2017	20
2018	14
2019	13
2020	0
2021	4

表3 2021年度技術研修受入状況（2021.4.1～2022.3.31）

氏 名	所 属	受入期間	備 考
千葉 寿	岩手大学	2021.12.21～12.23	WAN-WAN 利用者シンポジウム
藤崎 聡美	岩手大学	2021.12.21～12.23	WAN-WAN 利用者シンポジウム
須恵 耕二	熊本大学	2021.12.22～12.23	WAN-WAN 利用者シンポジウム
玉木 俊明	東北大学	2021.12.22～12.23	WAN-WAN 利用者シンポジウム

4-1-3 人 事

技術職員人事は、法人化されてからは、広く人材を確保するために、国立大学法人等採用試験や公募採用も取り入れ、即戦力、より高度な専門技術を持つ人材の採用を行ってきた。また、職員採用については技術職員の年齢構成も考慮しているが、現在の職員の年齢構成は、やや団塊となる世代がベテラン層に見られ、ライン制の組織構造で起こる人材登用問題も深刻になりつつある。これらを踏まえスタッフ制に改組した。技術職員は教員と違って人事の流動性はほとんどないため、長期間、同一職場に勤務すると、職務に対する意識が慢性化し活力が低下しがちである。従って人事の流動は、組織と個人の活性化に重要な施策として不可欠である。その対策として法人化前は一定の期間、所属を移して勤務する人事交流を行ってきた。しかし、法人化後は、交流先の機関での人材確保や技術分野の一致が見ら

れず、実施されていない状況である。現在、全国の技術職員のネットワークを通じて、新たな人事交流の可能性を模索している。

4-1-4 受 賞

高度で専門的な技術支援業務を通じて、分子科学研究の発展や研究成果の創出に顕著な貢献を行った技術職員に対して、その功績を讃えるために、日本化学会を始めとする学協会等が表彰制度を創設している。分子研創設以来の技術職員の受賞は、日本化学会化学技術有功賞 14 件、低温工学協会功労賞 1 件、日本放射光学会功労報償 1 件、ナノテクノロジープラットフォーム技術支援貢献賞 1 件である。今年度の受賞は以下の通りである。

中村永研	文部科学大臣表彰研究支援賞（2021）
豊田朋範	日本化学会化学技術有功賞（2022）

4-2 安全衛生管理室

安全衛生管理室は、研究所における快適な職場環境の実現と労働条件の改善を通じて、職場における職員の安全と健康を確保するための専門業務を行うことを目的として、2004年4月に設置された。安全衛生管理室には、室長、専任及び併任の安全衛生管理者、安全衛生管理担当者、化学物質・放射線・高圧ガス・電気・レーザーなどのそれぞれの分野を担当する作業主任者が置かれている。安全衛生管理者は、少なくとも毎週1回明大寺・山手両地区を巡視し、設備、作業方法又は衛生状態に危険及び有害のおそれがあるときは、直ちに、職員の健康障害を防止するための必要な措置を講じている。また、職場の安全衛生を推進するために必要な、作業環境測定（必要に応じ外部に委託）や、保護具、各種の計測機器、文献・資料、各種情報の集中管理を行い、分子研における安全衛生管理の中心としての活動を行っている。

また安全衛生管理室では、分子科学研究所全職員に対する安全衛生教育も行っており、そのための資料作成、各種資格取得の促進、専門家の養成などを行っている。雇入れ時の安全衛生教育は年度初旬に定例として行うほか、講習テキストと講習会DVDを用意し、年度途中の採用者に対しても、随時安全衛生教育が可能となるよう配慮している。

また長期滞在する外国人研究者に対しては、英文の安全衛生講習会テキストならびに英語版講習会DVDを作成し、これらの教材を用いた安全衛生教育を行っている。安全衛生に必要な情報は、安全衛生管理室のWEBページ（<http://info.ims.ac.jp/safety/>）にまとめて掲載しており、必要な規則や書式に即座にアクセス可能である。また、安全衛生管理室員全員のメールアドレスが登録されたメーリングリスト（safety@ims.ac.jp）も設定しており、各種の質問などに機動的に対応できる体制になっている。年に数回、分子研安全衛生委員会（岡崎3機関の「安全衛生委員会」に相当）と合同で連絡会議を開催し、所内の安全衛生状況に関する情報交換、連絡の徹底等が円滑に行なわれる体制を採っている。

今年度、新型コロナウイルス感染症対策として、岡崎3機関等で策定されたコロナ対策活動指針に準拠して、法定の「安全講習」と「安全巡視」を実施した。入構者の防疫管理手順については、これまでの運用状況や他機関からの情報も踏まえ、技術推進部、共同利用推進室、および所内受付チームらと協力してアップデートを続けた。防災対策として、各部門の「災害時・点呼リスト」の更新を、年一回の実施から、所属メンバーの変更時に実施するよう改めた。レーザー管理部門では、高出力レーザー開発研究に対応した「管理区域／装置設置届」の様式を新たに策定した。放射線管理部門では、他機関の放射線業務従事者申請手続きのペーパーレス化に対応して、所内手続きを改訂した。安全衛生教育に関しては、安全ガイド（英語版）の更新を行った。

4-3 研究力強化戦略室

研究大学強化促進事業（5-11 に記載）においては、各研究機関にリサーチ・アドミニストレーター（University Research Administrator, URA）を置き、研究活動の企画・マネジメント、研究力の強化、また研究成果の活用、そのための広報等を担当することが求められている。自然科学研究機構では、機構本部に研究力強化推進本部を置くほか、各機関に研究力強化戦略室が設置され、それぞれに URA 等のマネジメント人材、支援スタッフを置く形となっている。分子科学研究所の研究力強化戦略室では、室長を研究総主幹が務め、現場の運営を担うスタッフとして、2021 年度現在で URA 職員 4 名、助手 1 名、特任及び特命専門員 3 名、事務及び技術支援員 5 名の体制で運用している。また室員として、室長の他に所内教授 4 名と技術推進部長を指名し、随時、研究力を維持・強化に向けた方策に関する議論をする会議の場を設けている。この会議には、所長、及び必要に応じて URA 職員も同席する。また研究力強化戦略室の内部組織として共同利用推進室を設置し機器センターチームリーダーが中心となり、所外の共同利用の推進のための諸業務を担うこととなった。それには、「大学連携研究設備ネットワーク」や「ナノテクノロジープラットフォーム」「マテリアル先端リサーチインフラ」等の事業に関わる業務も一部含まれる。

研究力強化戦略室が現在になっている主な業務は、評価・IR、企画・概算要求、支援スタッフ等の人事管理、広報・アウトリーチ、国内及び国際共同研究推進、研究者支援、施設管理等があげられる。これらの業務を、必要に応じて各部門や施設、事務センター、機構本部等と連携して進め、研究者と事務組織の間を繋ぐ役割を担っている。

4-4 社会との交流

一般市民の方々に科学の面白さ・意義を伝えるとともに、科学コミュニティの健全な発展を促すような相互交流を醸成するための取り組みは、ますます重要性を増している。分子科学研究所では、このようなアウトリーチ活動の一環として、他機関との連携・共同により国内の広い範囲をカバーする事業、および、岡崎の地域性を重視した事業という2つのタイプを実施している。前者としては、自然科学研究機構シンポジウムならびに大学共同利用機関シンポジウムがあり、後者は一般公開、分子科学フォーラム、岡崎市民大学講座等である。また、全国の中学・高等学校の団体から、個人の申し込みまで、見学者を受け入れている。

4-4-1 一般公開

2021年10月23日（土）に分子科学研究所一般公開2021「見えない世界見放題!! 分子研プライムで生配信」をオンラインで開催した。一般公開では初のオンライン開催である。岡崎コンファレンスセンター中会議室にスタジオを設営し、10時から16時の6時間、ノンストップでライブ配信を行った。事前に作成した動画を流し、YouTubeとニコニコ動画のチャットの質問に答えていく形式とした。その他、講演会、若手研究者座談会、プチサイエンスショーをライブで行った。リハーサルを入念に行ったため、ほぼトラブルなく時間通りに進み、無事配信を終えることが出来た。また、2チャンネルで配信したため、総視聴者数は約30,000人と多くの方にご視聴いただき、全国へアピールすることが出来たのではないと思う。その後、分子研公式YouTubeにアーカイブ動画をアップしているが、SNS等での告知効果もあり再生回数が一般公開当日の2倍（2021年12月1日時点）となっている。



回数	実施月日	入場者数
第11回	2006.10.21	2058人
第12回	2009.10.17	1346人
第13回	2012.10.20	1126人
第14回	2015.10.17	2600人
第15回	2018.10.20	3878人
第16回	2021.10.23	YouTube 再生回数; 2618回 ニコニコ動画来場者数; 26,964人 (10/23一般公開終了時点)

4-4-2 分子科学フォーラム

当フォーラムは「分子科学の内容を他の分野の方々や一般市民にも知らせ、また、幅広い科学の話を分子研の研究者が聞き自身の研究の展開に資するように」との趣旨のもとに、1996年より実施されている。豊田理化学研究所と共催となっており、年度毎に年間計画を豊田理化学研究所の理事会に提出している。2008年度よりは、一般市民の方々に科学の面白さ・楽しさを伝える「市民一般公開講座」として新たに位置づけられ、2009年度には、一元的で効率的な活動の展開を目指して、広報室を中心とした実施体制の整備を進めた。この際、講演回数をこれまでの年6回から

4回に変更し、密度の高い講座を開講することで、より魅力的な『分子科学フォーラム』の実現を図った。COVID-19感染拡大後はオンライン開催に切り替えたが、開催時間、広報活動をターゲットに合わせ変更した結果、全国の社会人、大学生、高校生に参加いただけるようになり、参加人数もリアル開催よりオンライン開催の方が多い結果となった。

本年度の実施状況は以下の通り。(すべてオンライン開催)

回	開催日	テーマ	講演者	参加人数
128	2021. 6.11	宇宙における分子の進化と氷微粒子の役割	渡部 直樹 (北海道大学教授)	約 430 名 (累計 1,257 名)
129*	2021.10.23	宇宙の中のミクロ、ミクロの中の宇宙～はやぶさ2帰還試料のナノ有機物分析～	大東 琢治 (分子科学研究所助教)	約 240 名
130	2021.12. 3	人工光合成への挑戦～空気や水から価値ある分子を～	正岡 重行 (大阪大学大学院名誉教授)	約 340 名 (累計 1,174 名)
131	2022. 1.28	ウェルビーイング経営の本質～データが明かす新たな人・組織・社会と幸せ～	矢野 和男 (株)日立製作所フェロー、 (株)ハピネスプラネット代表取締役 CEO)	約 250 名 (累計 1,148 名)

*一般公開と同時開催

4-4-3 市民向けシンポジウム

(1) 自然科学研究機構シンポジウム

当シンポジウムは2006年より年2回のペースで実施され、下記のようにこれまでに計33回開催されている。

本シンポジウムに対する分子科学研究所の関与は次の通りである。第1回において、「21世紀はイメージング・サイエンスの時代」と銘打ったパネルディスカッション中で、岡本裕巳教授が「ナノの世界まで光で見えてしまう近接場光学」というタイトルで講演を行った。第2回目は、講演会全体の企画を分子科学研究所が中心となって行った(詳細は「分子研レポート2006」を参照)。第7回では、加藤晃一教授が自らの体験に基づいて「研究の醍醐味とは何か」を伝える講演を行った。第11回では、大峯巖所長(当時)が「水の揺らめきの世界：揺らぎと反応と生命」というタイトルで講演を行った。第14回は、再び講演会全体の企画を分子科学研究所が中心となって行った(詳細は「分子研レターズ68号」を参照)。第21回では、正岡重行准教授(当時)が「人工光合成への挑戦～植物に学ぶ分子デザイン～」というタイトルで講演を行った。2020年度の第30回は分子科学研究所が企画し、機構と名古屋市科学館の主催で「宇宙科学と生命科学の深～いつながり」と題したシンポジウムをオンラインで開催した。2021年度の第33回では、古賀信康准教授が「創って理解する 生命現象をつかさどる分子「タンパク質」」と題したオンライン講演を行った。

また、講演会の開催と併せて、展示コーナーを設けてビデオやパネルを用いた説明を行ってきている。常設展示室に設置されている可搬式のグラフィックパネルや模型を適宜利用するなど、展示内容のさらなる充実に努めている。合わせて、十分な説明要員を確保するために研究者の積極的な参加も促している。

今年度の実施状況は以下の通り。

回	開催日	テーマ	開催方法
32	2021. 8.21	生命科学とプラズマ工学がつくる未来	オンライン開催
33	2022. 3.13	宇宙と、分子と、私たち	オンライン開催

(2) 大学共同利用機関シンポジウム

本シンポジウムは、自然科学研究機構を含む4つの大学共同利用機関法人を構成する19の研究機関と宇宙科学研究所が、総合研究大学院大学と合同で開催したものである。各研究機関が「知の拠点群」として果たしている役割と、研究の推進を通じて切り拓かれた科学の広大なフロンティアの現状について、広く一般市民の方に紹介することを目指している。分子科学研究所はブース展示に参加し、先端的研究成果や分子科学に関連する基本事項の解説を行っている。例えば、常設展示室に設置されている920MHz NMRの半立体模型（第2回）、大型スクリーンに投影したスーパーコンピュータによるシミュレーションCG（第3回～第9回）、および各種の大型分子模型（第4回～第10回）、研究者トーク（第6回～第9回）等を通じて研究活動に関する詳しい説明を行った。2021年度も前年に引き続きオンライン開催となり、分子科学研究所は研究所紹介CM動画を配信し、またシンポジウム特設サイト内に分子研紹介ページを掲載した。

実施状況は以下の通り。（中期計画第3期）

回	開催日	テーマ	会場／開催方法
7	2016.11.27	研究者に会いに行こう！ —大学共同利用機関博覧会—	アキバ・スクエア
8	2017.10. 8	研究者に会いに行こう！ —大学共同利用機関博覧会—	アキバ・スクエア
9	2018.10.14	最先端研究大集合	名古屋市科学館
10	2019.10.20	宇宙・物質・エネルギー・生命・情報・人間文化 その謎に挑む	日本科学未来館
11	2020.10.17,18	宇宙・物質・エネルギー・生命・情報・人間文化： オンラインで研究者と話そう	オンライン開催
12	2021.10.24	宇宙・物質・エネルギー・生命・情報・人間文化 フロントの知を楽しもう	オンライン開催

4-4-4 見学者受け入れ

自然科学研究機構岡崎3機関の見学者の受け入れは、岡崎統合事務センター総務部総務課企画評価係が窓口になって行われており、その中で分子科学研究所の見学分については、研究力強化戦略室が中心となってその対応にあたっている。2010年5月に展示室を開設し、個人の見学受け入れを開始した。年間およそ300名が来訪している。2021年度は少人数で強い希望があり、感染状況が落ち着いていることを条件として受け入れた。

見学申込み

（中期計画第3期）

年度	団体申込（施設見学＋展示室見学）			個人申込 （展示室）	見学者総数
	団体数	見学者数	実施機関名	見学者数	
2016	9	281	愛知県弁護士会 東国大学附属女子高等学校（韓国） ほか	18	299
2017	14	306	静岡県立榛原高等学校 宇宙航空研究開発機構（JAXA） ほか	25	331
2018	11	361	GENY 財団科学キャンプ（韓国） 浜松南高等学校 ほか	29	390

2019	13	375	安城シルバーカレッジ 開成学園理化学部 ほか	6	381
2020	0	0	該当なし	0	0
2021	3	65	大阪府立富田林高等学校（オンライン）、岡崎市立三島小学校、岡崎市立北中学校（職場訪問）	0	65

4-4-5 その他

(1) 岡崎商工会議所（岡崎ものづくり推進協議会）との連携

岡崎商工会議所は、産学官連携活動を通じて地元製造業の活性化と競争力向上を目的に「岡崎ものづくり推進協議会」を設立し、多くの事業を行っている。この協議会と自然科学研究機構岡崎3研究所との連携事業の一環で、協議会の会員である市内の中小企業との交流会を2007年度に開催し、この交流会によって出来あがった協力体制は現在も継続している。また岡崎商工会議所主催で隔年開催される「岡崎ものづくりフェア」へ大学・研究機関として展示ブースを設けて参加している。

(2) 岡崎市観光協会との連携

2018年より岡崎市観光協会と連携を開始し、各種市民向けのイベント等で相互に協力することで、市民への広報活動がより活発に行えるようになっている。

実施日	内容
2018.10.20	一般公開 キッチンカーのご提供
2019. 6.13	岡さんぽ（岡崎市観光協会主催のイベント）への協力
2019.10.11	岡さんぽ（岡崎市観光協会主催のイベント）への協力

4-5 理科教育への協力

分子科学研究所は、愛知県や岡崎市という地域性を重視して、小学校から高等学校までの様々なレベルで理科教育への協力を行っている。岡崎市内の高等学校には、文部科学省に応募して採択されたスーパーサイエンスハイスクール（以下 SSH と略す）研究指定校、愛知県教育委員会より指定を受けた愛知スーパーハイスクール研究校や、あいち STEM ハイスクール研究指定校、さらに、科学技術振興機構（JST）のサイエンスパートナーシッププロジェクト（SPP）に応募して採択された SPP 実施校など、理科教育の充実を目指して独自の取り組みを行っているところも多い。分子研は、岡崎の3研究所で連携しつつ、もしくは単独で、これらの高校の活動に協力している。一方、小中学校を対象とした事業としては、出前授業、岡崎市のスーパーサイエンススクール推進事業（SSS）、職場体験などが挙げられる。また、教員対象の支援も行っている。各事業について、本年度に実施されたものを中心として、以下に記載する。

4-5-1 スーパーサイエンスハイスクール

愛知県立岡崎高等学校が2002～2005年度にSSH指定校となったことを契機として、分子科学研究所は同校のSSH事業に協力してきた。2007年度には、再度、指定を受け、5年間にわたる第二次SSH事業がスタートしている。これまでは、スーパーサイエンス部の支援が主な活動であったが、2011年度に同校が「コアSSH」としての指定を受けたのに際して、他校も含む理科教員の研修をお願いしたいとの依頼が分子研に寄せられた。これに対応して、2012年2月4日にはNMRの原理と応用に関する研修会を実施し、県内から8名の高校教員が参加して午前・午後を費やして講義ならびに実習を受講した。2013年3月9日には、「分子を探る、放射光の科学」としてUVSORにおいて研修会を実施した（5校7名が参加）。2014年2月10日にはSSH進路オリエンテーション（2年生理系対象の講演会）の講師対応も行った。また、魚住グループ、山本グループによる「国際化学オリンピック」に参加された同校生徒さんに対する実験指導・支援（見事、銀メダルを受賞された）も行った。尚、山本グループは海陽中等教育学校の生徒さんの実験指導・支援も行った（見事、金メダルを受賞された）。岡崎高校への支援としてはその他に、イングリッシュコミュニケーション研修に対して当研究所の外国人博士研究員が講師として参加した。岡崎高校は2018年度に4回目となるSSH指定を受け、新たに「SSHの日」を設定して生徒の成果発表を行うなど、新規の活動を展開しており、分子科学研究所はこれに協力している。

4-5-2 コスモサイエンスコース

分子科学研究所では、2008年度に愛知県立岡崎北高等学校が国際的に活躍できる科学技術者の育成を目的に新たに設置した、コスモサイエンスコースへの協力を、岡崎市にある基礎生物学研究所、生理学研究所とともに開始した。一時期中断したが、2015年より総合的学習の時間（研究者の講話）に講師を派遣している。同校は2020年度より、あいちSTEMハイスクール研究指定校となり、3研究所で出前授業を実施している。

（中期計画第3期）

開催日	講 師	テーマ
2016. 7. 8	榎山 儀恵 准教授	－
2017. 7. 7	榎山 儀恵 准教授	キラル分子の建築家を目指して
2018. 7. 6	榎山 儀恵 准教授	キラル分子の建築家を目指して

2019. 7. 5	榎山 儀恵 准教授	キラル分子の建築家を目指して
2020. 8. 5	大東 琢治 助 教	軟X線顕微鏡による有機物分析の最先端～ドラッグデリバリーからはやぶさ、そしていかにして働かずにご飯を食べるようになったか
2020.12.21	Hyo Yong Ahn 特任助教	The Science of the Microscopic World—How to Make, Observe and Utilize Nanometer-Level Materials
2021. 3. 5	榎山 儀恵 准教授	—
2021. 7. 2	加藤 晃一 教 授	第3の生命鎖＝糖鎖の話
2021.12. 6	古池 美彦 助 教	わたしの仕事 科学研究と進路の悩み（進路講演会）
2021.12.17	Sylvain de Léséleuc 助教	Catching Single Atoms to Explore the Quantum World (Science English)
2022. 1.21	杉本 敏樹 准教授	分子研授業：高校の勉強の先に何があるのか？

4-5-3 あいち科学技術教育推進協議会

SSH 研究指定校、愛知スーパーハイスクール研究校、さらに、SPP 実施校である愛知県下の 16 高校が、2009 年度に「あいち科学技術教育推進協議会」を立ち上げた。これは、文部科学省指定 SSH 中核拠点育成プログラムの一貫として、SSH で得た知識や組織力を活用し、全県的な取り組みとして理数教育の推進を目指したものである。当協議会は、毎年「科学三昧 in あいち」というイベントを開催している。当イベントには、県内の多数の高校から総数 300 名以上の参加者が集い、科学や技術についての先進的教育活動の紹介が行われる。第 13 回（2021 年 12 月 24 日）は YouTube を利用してオンライン開催された。YouTube にアップされた発表動画に対して、各研究所 1 名ずつの講師が、コメント欄による指導・助言を行った。

今期（中期計画第 3 期）開催された「科学三昧 in あいち」は以下の通りである。

回	開催日	会 場	参加者数
8	2016.12.27	岡崎コンファレンスセンター	840
9	2017.12.27	岡崎コンファレンスセンター	794
10	2018.12.26	名古屋大学	803
11	2019.12.27	岡崎コンファレンスセンター	795
12	2020.12.25	岡崎コンファレンスセンター	406
13	2021.12.24	オンライン開催	567

4-5-4 国研セミナー

このセミナーは、岡崎 3 機関と岡崎南ロータリークラブとの交流事業の一つとして行われているもので、岡崎市内の小・中学校の理科教員を対象として、岡崎 3 機関の研究教育職員が講師となって 1985（昭和 60）年 12 月から始まり、毎年行われている。

分子科学研究所が担当したものは以下の通りである。（中期計画第 3 期）

回	開催日	テーマ	講 師
118	2016.11. 1	人工光合成への挑戦～植物に学ぶ分子デザイン～	正岡 重行 准教授
121	2017.11.21	金属と生物：金属が生体内で示す様々な機能	青野 重利 教 授
125	2019. 2. 1	光で有機分子の電子の特徴を調べる	解良 聡 教 授

126	2019. 7.30	合理設計で探索する広大なタンパク質配列空間	古賀 信康 准教授
131	2021. 7.28	エネルギー問題と太陽電池	平本 昌宏 教授

4-5-5 中学校での出前授業

岡崎市内の小中学校を対象に、物理・化学・生物・地学に関わる科学実験や観察を通して、科学への興味・関心を高めることを目的に、岡崎市教育委員会や各小中学校が企画する理科教育に協力している。

分子科学研究所が今年度担当したものは以下の通りである。

開催日	テーマ	講師	対象校	聴講生徒数
2021.11.12	縁の下の方持ち：低温——低温の世界と不思議に触れてみよう——	豊田 朋範 技師 原田 美幸 技師 片柳 英樹 助手	新香山中学校	33
2021.12.17	超伝導って何？ 最先端研究施設から出張実験	松井 文彦 教授 片柳 英樹 助手	甲山中学校	33
2022. 1.13	超伝導って何？ 最先端研究施設から出張実験	松井 文彦 教授 片柳 英樹 助手 浅田 瑞枝 技術員	福岡中学校	149
2022. 1.21	レーザーと「単位」を味方につけよう——ちょっと手ごわい？ けど、仲間になろう——	片柳 英樹 助手 上田 正 主任技術員	竜南中学校	130

4-5-6 職場体験学習

岡崎市内及び近隣の中学校及び高等学校の要請により、職場体験学習として中・高生の受け入れに協力している。2018年度より、研究グループによる受け入れを開始した。2021年度も COVID19 感染拡大の影響により実施されなかった。

4-5-7 その他

(1) 岡崎市小中学校理科作品展

岡崎の3研究所は、岡崎市小中学校理科作品展に輪番（原則として3年に1回）でブース出展を行っている。分子科学研究所は、2018年は、水分子のシミュレーションに関する展示を行った。3次元映像を通して計算機中の水分子と対話できる本展示は老若男女を問わず大変好評であり、分子科学研究所の研究活動や後日開催の一般公開の宣伝として大変役立った。2020年の理科作品展は「おかざきッズ作品展」ホームページ内でオンライン開催（公開は2020年度末で終了）となった。2021年は岡崎市総合学習センターでのオンライン開催となった。分子科学研究所からは、分子研一般公開についてご案内する無人ブースを出展し、作品展ご来場の方々にご覧いただいた。

(2) 未来の科学者賞

岡崎3機関では、2009年度より理科教育並びに科学の将来の発展に資することを目的とし、豊かな発想や地道な努力の積重ねなど特色のある自由研究を行った児童又は生徒を褒賞するため、岡崎市小中学校理科作品展に出展された自由研究課題の中から、岡崎3機関の各研究所の研究者により構成される選考委員会により優秀者を選出し、未来の科学者賞を授与している。2021年度は、作品展前日に開催された選考会により、小学生6名、中学生4名の計10名

の受賞を決定した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から分子科学研究所の一般公開がオンライン開催となったため、一般公開日の表彰は行わず、受賞者へのトロフィー、表彰状及び記念賞品贈呈の授与による表彰は各小中学校で行った。

(3) 地域連携「生徒作品表彰」

愛知教育大学附属岡崎中学校による写生会が毎年度、岡崎3機関において、「建物の配置や組み合わせの美しい自然科学研究機構を写生する」ことを目的として行われ、同校の生徒に対して岡崎3機関と触れる機会を提供している。この写生会は、2004年度の自然科学研究機構の創設以前より、毎年度受け入れている。この写生会をきっかけに、岡崎3機関を地域において身近な存在として感じてもらう機会として、2011年度から、同校の教育活動の一部である写生会における優秀者を岡崎3機関として表彰し、同校における生徒の教育の賛助となるよう、同校の協力の下、賞状等を贈呈している。2021年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、写生会は中止となった。

4-6 情報発信

2021年4月～2022年3月は、日本語プレスリリース22件、英語プレスリリース14件、新聞報道66件、その他報道2件であった。

研究成果プレスリリース（共同発表を含む）

（2021年度）

ホームページ 公開日	タイトル	発表雑誌	担当研究部門	共同研究 機関	整理 番号
2021. 4.14	ヘム濃度センサータンパク質の作動機序を原子レベルで解明～病原菌が毒を回避する生存戦略～	Communications Biology	生命・錯体分子科学研究領域 生体分子機能研究部門	兵庫県立大学 理化学研究所 東京大学	2101
2021. 4.21	細胞のタンパク質品質管理機構に関する新たな知見～ジスルフィド結合の形成・開裂に関わる酵素の新たな二量体形成モチーフの発見と機能制御機構の解明～	Structure, USA	協奏分子システム研究センター 階層分子システム解析研究部門	東北大学 関西学院大学 徳島大学 韓国基礎科学支援研究院	2102
2021. 5. 7	原子点接触の形成による巨大なラマン応答の発見	Nano Letters	メゾスコピック計測研究センター 広帯域相関計測解析研究部門	フリッツ・ハーバー研究所	2103*
2021. 6. 3	H ⁻ イオンの低温高速伝導を実現	Science Advances	物質分子科学研究領域 分子機能研究部門	京都大学 大阪大学 ファインセラミックスセンター 高エネルギー加速器研究機構	2104
2021. 6.17	大型放射光施設 SPring-8 での「はやぶさ2」サンプルカプセル内の粒子の Phase2 キュレーション高知チームによる分析開始について	—	極端紫外光研究施設	海洋研究開発機構 立命館大学 高輝度光科学研究センター 国立極地研究所 他	2105
2021. 6.24	主鎖構造「歪み」を考慮したタンパク質構造の人工設計	Nature Communications	生命創成探究センター 生命分子創成研究グループ／ 協奏分子システム研究センター 階層分子システム解析研究部門	ワシントン大学 Nexomics Biosciences, Inc. レンセラー工科大学	2106*
2021. 7. 1	プラスチック分解酵素の熱安定性と活性を向上させ、熱安定性向上の構造的基盤と活性向上の機能を解明	ACS Catalysis	生命・錯体分子科学研究領域 生体分子機能研究部門、 生命創成探究センター 生命分子創成研究グループ／ 協奏分子システム研究センター 階層分子システム解析研究部門	静岡大学	2107*
2021. 7. 2	単一分子の精密ナノ分光 —観察しているナノ物質の性質を正確に評価する手法の確立—	Science	理論・計算分子科学研究領域 理論分子科学第一研究部門	理化学研究所 大阪府立大学 北海道大学	2108
2021. 7.14	超小型レーザーを使用した最先端のレーザーピーニングを「Society5.0 科学博」へ出展	Metals	社会連携研究部門	大阪大学 (株)ユニタック (株) LAcubed	2109*
2021. 8. 3	新型コロナウイルスの遺伝子を複製するタンパク質にレムデシビル、アビガンが取り込まれる過程を解明	Biophysical Journal	生命創成探究センター 生命分子動態シミュレーション研究グループ／ 理論・計算分子科学研究領域 計算分子科学研究部門		2110
2021.11. 4	“地上最強生物”クマムシの乾燥耐性の仕組みの解明に挑む—水分消失に伴って細胞の中のタンパク質が集まってファイバーをつくることを発見	Scientific Reports	生命創成探究センター 生命分子動態シミュレーション研究グループ／ 生命・錯体分子科学研究領域 生体分子機能研究部門	基礎生物学研究所 生理学研究所 名古屋大学	2111

2021.11.18	120年の歴史を塗り替える：ペースト状グリニャール試薬の合成に成功～有機溶媒の使用量を劇的に低減する新しい物質生産プロセスの構築へ	Nature Communications	特別研究部門	北海道大学	2112
2021.11.19	目に見えない近赤外光を高効率に可視光に変換する新技術を発明	Nature Photonics	物質分子科学研究領域 分子機能研究部門		2113*
2021.12.24	秩序と乱れが共存した高性能な液晶性有機半導体を開発—電子回折により液晶が凍結した分子配列構造を確認—	Chemistry of Materials	生命・錯体分子科学研究領域 錯体物性研究部門	東京大学 理化学研究所 東北大学	2114
2022. 1. 7	世界最小電圧の乾電池 1 本で発光する有機 EL を開発	Advanced Optical Materials	物質分子科学研究領域 分子機能研究部門	富山大学	2115*
2022. 1.20	アジアで初めて米国化学会「歴史的化学論文大賞 (Citation for Chemical Breakthrough Awards)」を受賞	—	分子科学研究所	名古屋大学 京都大学 高砂香料工業(株)	2116
2022. 1.14	ヒドリド超イオン導電体の発見	Nature Materials	物質分子科学研究領域 分子機能研究部門	東京工業大学 高エネルギー加速器研究機構 ヘルムホルツ研究所 フランス原子力・代替エネルギー庁 他	2117*
2022. 1.18	“酵素でペットボトルをリサイクル” PET 分解酵素の産業応用に向けた共同研究を開始～環境負荷の低いリサイクルを促進する技術～	—	生命・錯体分子科学研究領域 生体分子機能研究部門、 協奏分子システム研究センター 階層分子システム解析研究部門	キリンホールディングス(株) 静岡大学	2118
2022. 2.17	～オープンイノベーション型ライフサイエンス研究のロールモデルづくり～ 東京大学藤田誠卓越教授ら新研究拠点「FS CREATION」を「三井リンクラボ柏の葉 1」に開設	—	特別研究部門	東京大学 三井不動産(株) (株)島津製作所 日本電子(株) 他	2119
2022. 3.10	巨大タンパク質複合体による概日リズム制御—小角散乱と計算科学の統合アプローチ—	Communications Biology	生命創成探究センター 生命分子動秩序創発研究グループ/ 生命・錯体分子科学研究領域 生体分子機能研究部門	京都大学 名古屋市立大学 量子科学技術研究開発機構 ラウエ・ランジュバン研究所 他	2120
2022. 3.25	抗原は抗体の構造変化を介して免疫機能を制御する—抗体が免疫機能を誘導するメカニズムの解明に貢献—	mAbs	生命創成探究センター 生命分子動秩序創発研究グループ/ 生命・錯体分子科学研究領域 生体分子機能研究部門	大阪大学	2121
2022. 3.31	単一分子光電流計測法の開発—単一分子で生じる光電エネルギー変換の観測に成功—	Nature	理論・計算分子科学研究領域 理論分子科学第二研究部門	理化学研究所	2122

* 分子科学研究所主体

研究成果英語プレスリリース（共同発表を含む）

（2021 年度）

EurekAlert! 公開日	タイトル	日本語版 整理番号
2021. 5. 7	Discovery of Huge Raman Scattering at Atomic Point Contact	2103
2021. 6. 2	Bringing Order to Hydrogen Energy Devices	2104
2021. 6.24	Researchers Solve a Puzzle to Design Larger Proteins	2106
2021. 7. 1*	Returned Asteroid Samples Imaged at Ultra-High-Resolution by the Phase 2 Curation “Team Kochi” at Spring-8: One of the World’s Most Powerful Synchrotron Radiation Facilities	—

2021. 7. 7	Engineered Protein Inspired by Nature May Help Plastic Plague	2107
2021. 7.31	“Bucket brigade” Using Lysine Residues in RNA-Dependent RNA Polymerase of SARS-CoV-2	2110
2021.11. 1	Gather before Dry Up! Tardigrade Protein Self-Assembles into Fibrous Condensates under Desiccation Condition	2111
2021.11.18	120-Year-Old Reaction Turned on Its Head with Environment-Friendly, Paste-Based Method	2112
2021.11.18	Efficient Photon Upconversion at an Organic Semiconductor Interface	2113
2021.12.24*	A Novel “Frozen Liquid Crystal” Material Is Synthesized and Characterized by Electron Crystallography and Shows the Potential for a Flexible, Printable Organic Semiconductor	2114
2022. 1. 6	Organic Light Emitting Diodes Operated by 1.5 V Battery	2115
2022. 1.18*	Joint Research Begins on PET-degrading Enzymes for Sustainable Recycling	2118
2022. 1.26	First Hydride Superionic Conductor Developed, Implications for Sustainable Energy	2117
2021. 2.17*	= Creating a Role Model for Open Innovation-Type Life Science Research = New Research Base FS CREATION Opened by The University of Tokyo Distinguished Professor Makoto Fujita and Others at MITSUI LINK-Lab KASHIWANOHA 1	2119

*EurekAlert! 未公開のためホームページ公開日

新聞報道

(2021 年度)

報道日	記事内容	新聞名	該当研究部門
2021. 5. 4	“分子の仕事人” 新たな一歩	日刊工業	特別研究部門
2021. 6. 1	ビール苦み ウマク制御 キリン, 成分 13 種類特定	日刊工業	特別研究部門
2021. 6. 4	原子点接触の形成で巨大ラマン応答得る 分子研など「常識覆す新分光原理」	科学	メゾスコピック計測研究センター 広帯域相関計測解析研究部門
2021. 7.23	プラスチック分解酵素 熱安定性と活性を向上	科学	生命・錯体分子科学研究領域 生体分子機能研究部門, 生命創成探究センター 生命分子創成研究グループ
2021. 8. 3	分子の「鋳型」で分析容易に	日本経済	特別研究部門
2021. 9. 1	はやぶさ 2 が採取 岩石試料分析開始	中日	極端紫外光研究施設
2021. 9. 3	東大・藤田教授, 開発に「近道」	日経産業	特別研究部門
2021. 9. 3	基礎研究は必ず役に立つ	日経産業	特別研究部門
2021. 9. 5	リュウグウの有機物は?	東海愛知	極端紫外光研究施設
2021. 9. 8	分子研一般公開オンライン実施	東海愛知	分子科学研究所
2021. 9.28	世界をリードする卓越研究者 結晶スポンジ法 分子構造解析	日刊工業	特別研究部門
2021. 9.28	ノーベル賞 今年は誰に	朝日	特別研究部門
2021.10. 3	2年ぶり日本人受賞なるか	日本経済	特別研究部門
2021.10. 3	コロナワクチン基盤技術に注目	読売	特別研究部門
2021. 10. 4	ノーベル賞 きょうから発表 中部に有力候補	中日	特別研究部門
2021.10. 7	化学賞基礎研究に光	読売	所長

2021.10.13	一般公開通じ分子研知ろう 23 日オンラインで	中日	分子科学研究所
2021.10.26	長嶋茂雄氏ら 9 人に文化勲章 文化功労者	日経産業	所長
2021.10.26	文化功労者	中日	所長
2021.10.27	文化功労者	中日	所長
2021.10.27	文化功労者 触媒の機構解明に貢献	中日	所長
2021.10.27	文化功労者	読売	所長
2021.10.27	文化功労者	日本経済	所長
2021.10.27	文化功労者	日刊工業	所長
2021.11. 2	紫綬褒章	朝日	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2021.11. 2	紫綬褒章 秋の褒章県内 43 人	読売	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2021.11. 2	紫綬褒章 秋の褒章 808 人 22 団体	読売	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2021.11. 2	紫綬褒章	中日	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2021.11. 2	紫綬褒章	日本経済	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2021.11. 2	紫綬褒章	日刊工業	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2021.11. 2	紫綬褒章	毎日	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2021.11. 5	紫綬褒章	科学	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2021.11. 8	文化功労者顕彰 青柳元文化庁長官ら栄誉	文教ニュース	所長
2021.11. 8	秋の褒章 東京五輪。パラ金メダリストら 104 名受章	文教ニュース	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2021.11. 8	とらのもん往来	文教ニュース	所長
2021.11.19	近赤外光 → 黄色い可視光に 分子研有機半導体膜 界面で変換	日刊工業	物質分子科学研究領域 分子機能研究部門
2021.11.25	ナノテク基盤 高水準の研究支える	日刊工業	分子科学研究所
2021.12. 1	分子研所長に渡辺さん内定	中日	新所長
2021.12.14	学士院新会員に矢野氏ら	中日	所長
2021.12.14	学士院新会員 矢野氏ら 5 人	毎日	所長
2021.12.14	学士院の新会員 中西さんら 5 人	朝日	所長
2021.12.14	学士院新会員 川合さんら 5 人	読売	所長
2021.12.17	新所長に渡辺氏	東海愛知	新所長
2021.12.17	学士院新会員 川合真紀氏ら 5 人	科学	所長
2021.12.23	誰も思いつかない発明を	日刊工業	特別研究部門
2022. 1.11	有機 EL, 電池 1 本で光る 分子研・富山大ディスプレイ省エネ化	日刊工業	物質分子科学研究領域 分子機能研究部門

2022. 1.13	経営に「幸せ」の視点 講座を通じて考えて	中日	分子科学研究所
2022. 1.19	超イオン導電体ヒドリド拡散 分子研	日刊工業	物質分子科学研究領域 分子機能研究部門
2022. 1.19	富山大など、電池1本で有機EL発光	日経産業	物質分子科学研究領域 分子機能研究部門
2022. 1.20	酵素でペットボトル再生 キリン・静岡大など 共同研究	日刊工業	生命・錯体分子科学研究領域 生体分子機能研究部門, 生命創成探究センター 生命分子創成研究グループ
2022. 1.21	ノーベル賞2氏 歴史的化学論文大賞 野依・ 故 福井氏	日刊工業	分子科学研究所
2022. 1.21	歴史的化学論文大賞に野依・福井両氏	毎日	分子科学研究所
2022. 1.21	ノーベル野依さんら論文が「歴史的的大賞」	中日	分子科学研究所
2022. 1.25	経営にデータ活用 28日分子研がオンライン 講座	東海愛知	分子科学研究所
2022. 1.28	「世界最小電圧」乾電池1本で発光 分子研と 富山大 有機EL開発	科学	物質分子科学研究領域 分子機能研究部門
2022. 2. 2	野依氏論文に米化学会大賞	日経産業	分子科学研究所
2022. 2.11	紫綬褒章記念講演	中日	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2022. 2.17	「熊」みたいな虫?クマムシって?	毎日	生命創成探究センター 生命分子動秩序創発研究グループ
2022. 2.18	東大・三井不 オープンイノベ拠点開設 千葉・ 柏市民間研究施設 産学官で新産業創出	日刊工業	特別研究部門
2022. 2.18	東大・藤田誠卓越教授 オープンイノベ拠点開 設 分子構造解析で初	日刊工業	特別研究部門
2022. 2.25	あの人に迫る 量子技術の進歩 未来変えられる	中日	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2022. 2.28	大森賢治教授・大型インタビュー「あの人に迫 る」・「量子技術の進歩, 未来変えられる」	東京	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2022. 3. 3	膨大な問題 量子なら一瞬で答え 分子研・大 森賢治教授インタビュー上	中日	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2022. 3. 4	同じことをやりたくない 分子研・大森賢治教 授インタビュー中	中日	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2022. 3. 5	量子の世界 もろ刃の剣 分子研・大森賢治教 授インタビュー下	中日	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門
2022. 3.16	財団賞14件, 奨励金18件 永井科技財団 研 究助成決まる	日刊工業	物質分子科学研究領域 分子機能研究部門

その他

(2021 年度)

発行日等	記事等内容	掲載誌等名	該当研究部門
2022. 3. 1	からだの中がゲルになる！？ クマムシだけが持つタンパク質の役割	Someone, 2022. 春号, Vol. 58. リバネス出版 (株式会社リ バネス)	生命創成探究センター 生命分子動秩序創発研究グループ
2022. 3. 3	次世代の産学連携拠点「三井リンクラボ柏の葉」を訪問しました！	Chem-Station (ケムステ)	特別研究部門